

統計アラカルト

熊本の統計情報

令和5年3月29日

県民の皆様に統計を身近に感じていただくためのページです。

随時、色々な統計に関する話題・データを紹介します。

2023年2月分の熊本市の消費者物価指数が公表されました。「生鮮食品を除く総合」の前年同月比は12月の4.1パーセント、1月の4.2パーセントに引き続き、3.2パーセントの上昇でした。一方、2月の前月比は0.7パーセント低下しています。今後の推移が気になるところです。

今回は食卓には欠かせない「食パン」の値段をテーマとして、「家計調査」(総務省統計局)の調査結果をもとに、1世帯・1年分の「購入数量」と「購入単価」の相関をグラフにします。その上で全国平均と熊本市平均のデータの2007年からの推移を考察します。

(※家計調査の結果では1世帯・1年分の「購入金額」と「購入数量」が公表されますので、 $\text{購入単価} = \text{購入金額} \div \text{購入数量}$ で「購入単価」を把握しています。)

図1

「食パン」の購入数量と購入単価の動き
(二人以上の世帯) (2007~2022年)

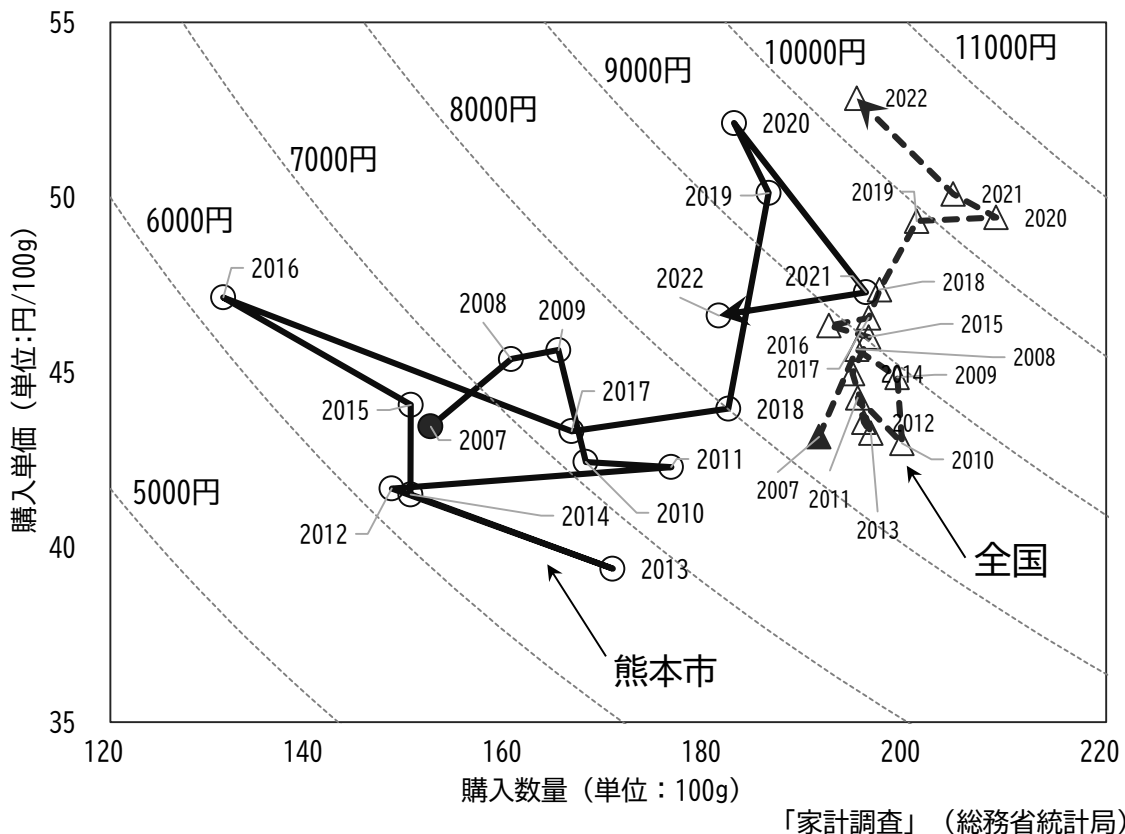


図1の見方ですが、横軸は購入数量で右に行くほど購入数量が多くなります、また縦軸は購入単価で上に行くほど、購入単価が高くなります。そのため、グラフの細曲破線の同金額上では、左上に行くほど購入単価が上がり、右下に行くほど購入数量が増えます。

熊本市(太実線で表示)では、2007年から2008年、2009年にかけて単価が若干上がり購入数量も増えています。購入単価は2013年が一番低くなり、上下を繰り返しながら、2020年まで徐々に上昇しているのが分かります。2021年、2022年は若干単価が落ち着いています。熊本市の購入数量は全国(太破線)と比較しても、増減が大きく、全国の購入量より少ない状況です。

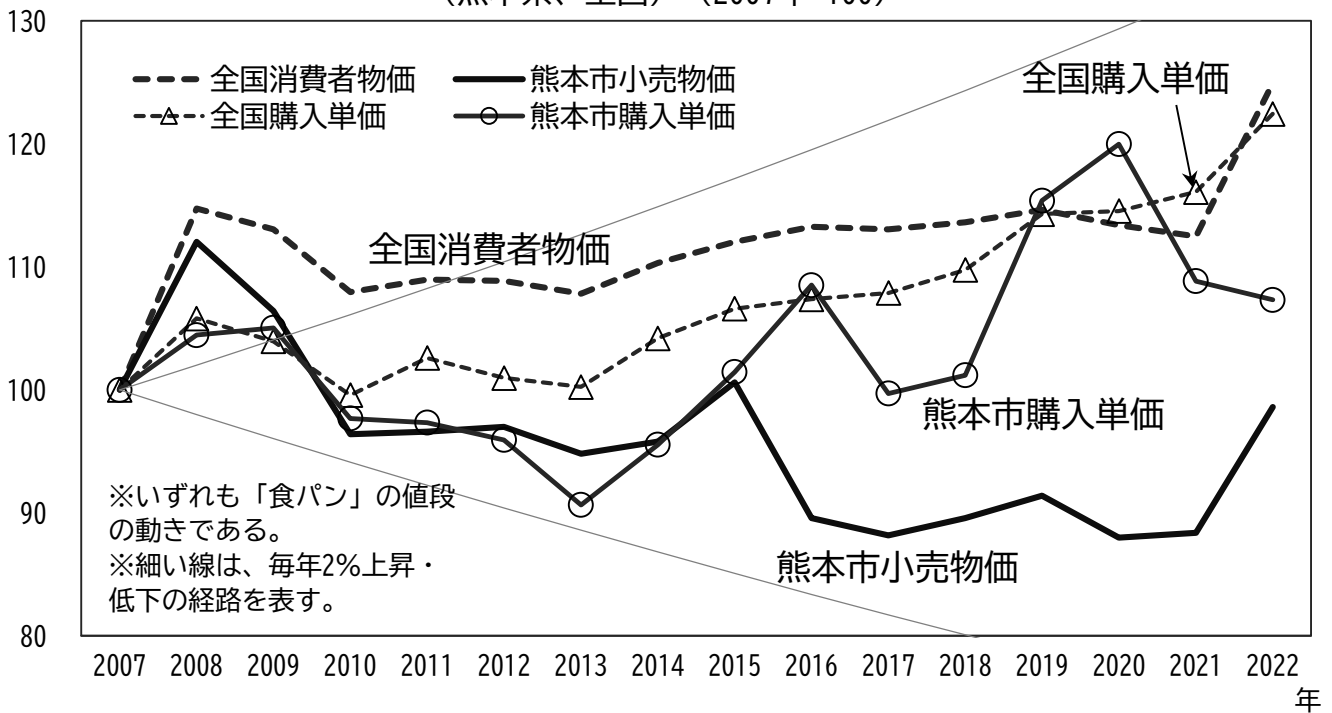
全国(太破線)は、購入単価は2010年が最低で、2022年にかけて徐々に単価が上昇しています。購入数量は、年間20kg～21kg(8千円～1万円)でほぼ安定している状態です。

熊本市と全国を概観すると、単価の上昇にかかわらず購入数量はあまり増減がなく、熊本市の購入量より多くなっています。熊本市は全国に比べると購入量が少なく増減も大きくなっています。熊本市と全国の折れ線の長さを計測すると、熊本市の方が、全国の3.7倍の長さになっていました。

熊本市は全国に比して、単価や購入量が一定せず、主食の中で米等と競合し、あまり一般化していない可能性もあるのかもしれませんが。皆さんは、どのように考えられますか。

図2

「食パン」の購入単価と小売物価・消費者物価の推移
(熊本県、全国) (2007年=100)



「家計調査」、「小売物価統計調査」、「消費者物価指数」(総務省統計局)

次に、上の図2は、全国と熊本市の小売物価と「食パン」の購入単価を指数化したもので、図1でも使用した「購入単価」(熊本市及び全国)を、「消費者物価指数」又は「小売物価」と、折れ線グラフにより比較しています。

熊本市の購入単価と小売物価の動きは、2016年以降、差が生じていますが、2021年と2022年には、差が縮小しています。全国の場合は、2008年から差が生じましたが、2019年以降は差がほとんど見られなくなりました(あくまでも、2007年の水準を基準とした比較という条件のもとで、2本の折れ線がくっついたという意味です。)

全国での、この2008年の状況については、「物価上昇に対して家計は、品目ごとにどのように反応したか」という観点で、総務省統計局が資料としてまとめています(下の※)。関心をお持ちになった方は、御一読なさってはいかがでしょうか。

(※)「家計調査の結果を見る際のポイント No.13 ～ 購入数量と購入単価 ～」(平成21年5月1日、総務省統計局)

<https://www.stat.go.jp/data/kakei/point/index.html>

問合せ先: 熊本県企画振興部 交通政策・統計局 統計調査課 生活統計班 〒862-8570 熊本市中央区水前寺 6-18-1

電話: 096-333-2174 / Fax: 096-384-7544 / メール: toukeichousa@pref.kumamoto.lg.jp